



血液疾患の専門医は全国的にも数が少ないとのこと。「受け入れ体制がしっかりした当科がその強みを生かして、後継者を育てる。それが患者さんのメリットにつながる」と両教授は言う。

Hematology

近藤英生 教授

■専門分野
血液病学、輸血・細胞治療学、造血器腫瘍、造血幹細胞移植、腫瘍免疫

■認定医・専門医・指導医
日本内科学会総合内科専門医・指導医、JMECCインストラクター、日本血液学会血液専門医・指導医、日本輸血・細胞治療学会認定医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医、日本救急医学会認定ICLSインストラクター、臨床遺伝専門医



白血病の治療では、日本成人白血病治療共同研究グループ(JALSG)に参加し、多施設共同研究の成果を臨床活動にフィードバックしている。



疾患の性質上、患者とは長い付き合いになることが多い血液内科。「医師として患者さんに長く寄り添うためには、仕事や趣味、普段の習慣など、患者さんの日常生活をよく知ることが大切」と和田教授。

医療最前線

》》vol.56

川崎医科大学附属病院 血液内科

和田秀穂 教授

Hideho Wada

■専門分野
血液学、輸血・細胞治療学、溶血性貧血、HIV感染症

■認定医・専門医・指導医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師、日本感染症学会感染症専門医・指導医・認定ICD、日本性感染症学会認定医、日本エイズ学会認定医・指導医、身体障害者指定医師(免疫機能障害)、岡山県緩和ケア研修会修了

Report!

血液疾患の全領域をカバー 患者の一生を支える

先天性溶血性貧血からリンパ腫、白血病まで幅広く対処。

「血液内科は、血液病を中心とした内科疾患の診療、診断困難な症例の解析、難治性血液疾患の治療を行なう診療科です」と話すのは和田秀穂教授。先天性溶血性貧血やHIV感染症などを専門とし、現在、近藤英生教授とともに当科を率いている。

「当院の血液内科は、四五五年の歴史を持ちます。その間、先天性溶血性貧血においては初代、二代目の主任部長の研究テーマが赤血球だったこともあり、三代目そして四代目の私まで、途切れることなく診療ノウハウが継承されてきました。そのため今では全国から患者さんが当科を訪れ、同時に他医療機関の医師からも相談を受ける存在になっています。長年にわたって蓄積してきた豊富な診療実績が当科の強みのひとつといえます」。

その他にもHIV感染症の治療では一九九四年に岡山県におけるエイズ治療拠点病院、二〇〇七年からは、エイズ中核拠点病院として地域の中心的役割を担っている。

「岡山県は一九九四年五月に、全国で最初に『岡山HIV診療ネットワーク』を立ち上げました。これは、東京や大阪よりも早く、まだ県内に患者が発生していない段階での取り組みです。行政や他医療機関との垣根を越えた連携は、全国的にも注目されています」。

今年四月から当科の部長として新

しく赴任した近藤英生教授。国内の医療機関やドイツでの留学経験で培った専門知識を生かし、おもにリンパ腫や白血病などの治療に当たっている。

「当科で勤務し始めて、まず驚いたのが病床の多さです(無菌室・SOKラ5・5・二床を含む、計一六床を完備)担当医も多く、外来から入院患者まで、多くの患者さんを受け入れられる体制が整っています」と近藤教授。

さらに現在、当科には両教授を含め、一七人の医師が在籍。これだけの医師を揃えているのは、全国的にもめずらしいとのこと。「豊富な実績を持つ当科だからこそ、医師も集まりやすいのかもしれません。よい人材を集めて、育てていくのも大病院の使命です」と和田教授は言う。

両教授に医師としての心得を尋ねた。近藤教授は、「医学面だけでなく経済面などを考慮した対応が必要です。いろいろな意味で患者さんの負担を小さくするのも医師の務めです」。

和田教授は「血液疾患は、患者さんと長い付き合いになるケースが多い。だから、医師は患者さんの日常生活を知り、寄り添う意識が大切です。当科が土曜日診療(午前中)を行なっているのも、患者さん本位の姿勢の表れです」。

血液疾患の全領域をカバーし、患者の一生を支えたいと考える当科。両教授の取り組みに期待が集まる。

お問合せ
川崎医科大学附属病院
倉敷市松島577
☎0864621111
<https://h.kawasaki-m.ac.jp/>